

前 号 目 次

研 究 報 告

東日本大震災復興とソーシャルビジネス	大 滝 精 一.....	5
株主重視経営の意義と問題		
—イノベーションとコスト競争の相克—	亀 川 雅 人.....	39
ベトナム 中小 企業		
—成長要因と支援政策—	舟 橋 學.....	73
シンポジウム〈成城学園創立100周年記念〉		103
趣旨説明	小 川 英 治.....	104
アジアのリテール・中小企業金融と証券化		
—タイ・アユタヤ銀行などのケーススタディ	山 上 秀 文.....	107
アクセスだけが問題か？ インドネシアの中小企業金融	濱 田 美 紀.....	117
ベトナムにおける民間企業金融	福 島 章 雄.....	128
討論者コメント	藤 野 次 雄.....	138
討 論		146

編 集 後 記

成城大学経済研究所は昨年創設30周年を迎え、成城学園創立100周年と重なったこともあって、多くの記念行事を催した。7月に記念シンポジウムを、10月に講演会とグアダハラ大学との日墨学術国際交流シンポジウムを、さらに11月には高垣文庫所蔵貴重書展示会を開催した。また研究プロジェクト活動の一環として8回のミニ・シンポジウムを開いた。いずれの催しも学内外から多くの方々のご参加をいただくことができた。この場をお借りして改めてお礼申し上げる。

7月のシンポジウム「2050年の世界に向けて日本は何をすべきか」では、岩田一政氏（元日本銀行副総裁、日本経済研究センター理事長）を座長として、岡田豊氏（みずほ総合研究所主任研究員）、山本謙三氏（NTT データ経営研究所取締役会長）、岩本康志氏（東京大学大学院経済学研究科教授）をお招きして今後の日本の進むべき方向性について、それぞれの専門の観点から貴重な知見を披瀝していただいた。

10月の講演会では、「文明と経済—古代・中世の社会経済構造」という遠大なテーマで、大月康弘氏（一橋大学大学院経済学研究科教授）と明石茂生氏（本学経済学部教授）から現代経済社会を相対化する極めて貴重なお話を伺うことができた。

シンポジウムと講演会の熱気に包まれた様子は本号に掲載された文章から感得していただけるであろう。

また新倉貴仁氏（本学文芸学部准教授）からは、ミニ・シンポジウムの内容を「[能率]の共同体—第一次大戦後から高度成長期までのミドルクラスとナショナリズム」と題して本号にご寄稿いただいた。なお他のミニ・シンポジウムの報告は『研究報告』として出版された。これらは当研究所のホームページから逐次ダウンロード可能になるのでご利用いただきたい。

当研究所は、昨年度から引き続き研究第2部プロジェクト「持続可能な相互包摂型社会の実現に向けた金融システムの変貌」を進めるとともに、第1部、3部プロジェクトが、それぞれ「グローバルヒストリー再考：文明からみる世界経済史」、「第4次産業革命時代の到来とビジネスシステムの革新に関する研究」を新たなテーマとして始動する。今後とも研究所の活動にご参加・ご協力いただければ幸いです。（立川記）